

2010 - 2011 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 4月分

作成者：山本 由貴
2011.05.10



この報告書も今回で最後となりました。報告書を毎月作成することで、自分の今までの活動を客観的に振り返りながら次につなげていく事ができたように思います。読んで下さった皆様、本当にありがとうございました。報告書を通して、アメリカの事やこの奨学生制度に少しでも興味を持って頂くことができたなら、嬉しく思います。

今月の報告書では、大学内でのイベントやシンポジウム、また4月にあった復活祭などについて紹介させていただきます。

◆International Night (インターナショナル ナイト) ◆

4月8日に大学内で International Night が開催されました。このイベントはお祭りのようなもので、各国からの留学生が中心となって企画・運営をします。1年に一度開催される大きなイベントなので、大学の教職員・学生はもちろん、地域の方々も楽しみにしているようです。

会場では国ごとにテーブルが設置され、その国の遊びや文化を体験することができます。また、国ごとに料理もふるまわれるので、大学のイベントの中でも特に来場者の多い催しとなっています。



今年は、日本のブースでは書道や折り紙、けん玉、だるま落としなどの体験コーナーと、浴衣など伝統衣装の展示コーナーを準備しました。また日本料理として手巻き寿司、肉じゃが、味噌汁を自分たちで作り、ふるまいました。パフォーマンスの時間には、日本人留学生でよさこいと盆踊りを披露しました。この日のために約1ヶ月前から皆で準備をしてきたので、お祭りが終わった際には達成感がありました。フィンドレー大学で出会った日本人留学生の皆とは、この留学期間中、励まし合いながら共に頑張ることができました。この出会いを大切に、日本に帰国した後も皆と連絡を取り合っていきたいです。

◆シンポジウム・研究発表◆

4月13日に、学内でシンポジウムが開かれました。学生が日ごろの研究成果を教職員や学生、地域の人を対象に発表することを目的として開催されます。各学部から数名ずつ発表者が選出されるのですが、今回教授からお話を頂き、私も研究内容を発表させて頂くことになりました。私は「日本における小学校英語教育」というテーマで発表をし、参加者の方々から色々なフィードバックを頂きました。シンポジウムと期末試験の日にちが近かったということもあり、発表の準備をするのは大変でしたが、時間をかけた分だけ得られるものも多かったです。海外から見た日本の英語教育という視点も持ちながら、今後もテーマを深めていきたいです。今回参加者の方から頂いた感想や示唆を、教員になった際に役立てていきたいと思っています。

◆Easter (復活祭) ◆

4月22日～24日は、Easter (復活祭) をお祝いして大学が休みになりました。この期間、ほとんどの学生は実家に帰り、Easter を家族と共に祝います。私は、Akron (Findlay から車で2時間程) という町出身の友人が家に誘ってくれたので、一緒に Akron へ行き、彼女の家族と一緒に Easter を過ごしました。

Easter (復活祭) とは、イエス・キリストが死後、復活したことを祝う日です。キリスト教徒の方にとって、とても重要な祝日となっています。Easter 当日である24日には、友人の家族と教会へ行き、その後エッグ・ハントという遊びも体験しました。エッグ・ハントとは、子どもが部屋や庭のあちこちに隠されたカラフルな色の卵を見つけ出すという遊びです。今回友人の家では、卵の形をしたプラスチック製の卵ケースが隠されており、その中にはチョコレートなどのお菓子が入っていました。アメリカの重要な祝日を、友人とその家族と一緒に祝いすることができ、貴重な経験をさせていただきました。実際に体験したアメリカの文化を、教員になった際に自分の言葉で生徒に伝えていければと思います。



◆卒業式◆

5月7日に卒業式が行われました。映画などでよく目にする、ガウンと帽子を卒業生は身に着けていました。ガウンに入っている線の色は、学部によって違うそうです。式の後、帽子を投げることは大学の卒業式ではほとんどしないようで、その様子を見ることはできませんでした。式では卒業生一人ひとりの名前が呼ばれ、名前を呼ばれた卒業生がステージに上がり、学長と握手をして卒業証書を受け取ります。卒業生全員が順番にステージに上がるので、式は約3時間ありました。

日本の卒業式は厳かなイメージがありますが、アメリカの卒業式では卒業生の名前が呼ばれると、その家族や友人が立ち上がって「おめでとう！」と言ったりするなど、日米の卒業式で様々な違いを感じました。式の後には、屋外でアーチセレモニーが行われました。フィンドレー大学にはアーチ(門)が一つあるのですが、学生は入学式の後この門をくぐります。卒業するまでは、この門を再度くぐってはいけないという言い伝えがあります。卒業式の後、全員でこのアーチへ向かい、卒業生は入学したときにくぐった門を再度くぐるのです。私も入学式の際に門をくぐって中に入ったので、卒業式当日に卒業生と一緒に門をくぐって外へ出ました。フィンドレー大学の学生にとって、このアーチセレモニーは大切なしきたりとなっているようです。



留学を振り返ってみて「留学させて頂くことができ、本当に良かった」と心から思います。アメリカの文化を自ら経験しながら、そして学びたい教育分野についても学部でしっかりと勉強することができました。また何よりも、今後一生築いていける人間関係が作れたことを嬉しく思います。尊敬できるすばらしい人との出会いが沢山ありました。多くの方の支えがあったからこそ、私の留学生活はこんなにも充実したすばらしいものになったのだと言えます。言葉では十分表現できないほど、心から感謝しています。私がアメリカで経験したこと、感じたこと、学んだことを教員になって福井県の子どもたちに自分の生きた言葉で伝えていきたいです。福井県の子どもたちが、広い視野を持った真の国際人になるために少しでも貢献できればと思います。最後に、このような貴重な機会を与えて下さった方、また支えて下さった多くの方々、本当にありがとうございました。